

# プレミアリーグ レスター・シティの優勝分析

## 目次

- 1.はじめに
  - 2.研究背景
  - 3.取り扱うデータ
  - 4.研究の流れ
  - 5.分析結果
  - 6.まとめと考察
  - 7.今後の課題
- 参考文献-

東海大学 情報通信工学部  
経営システム工学科  
稲留敬太

# 1. はじめに①

- 1993年に1部リーグであるプレミアリーグを設立
- 世界中で10億人に視聴され、全世界で最も人気の高いリーグ
- 世界最高峰レベルのリーグでもある

世界のBIGクラブと呼ばれる11チーム中  
プレミアリーグには5チームと最も多い

- ◆マンチェスター・ユナイテッド
- ◆マンチェスター・シティ
- ◆リヴァプール
- ◆チェルシー
- ◆アーセナル

過去優勝クラブは  
たった6チーム

表1：プレミアリーグ優勝回数

過去プレミアリーグ優勝クラブ	回数
マンチェスター・ユナイテッド	13
チェルシー	4
アーセナル	3
マンチェスター・シティ	2
ブラックバーン・ローヴァーズ	1
レスター・シティ	1

# 1.はじめに②

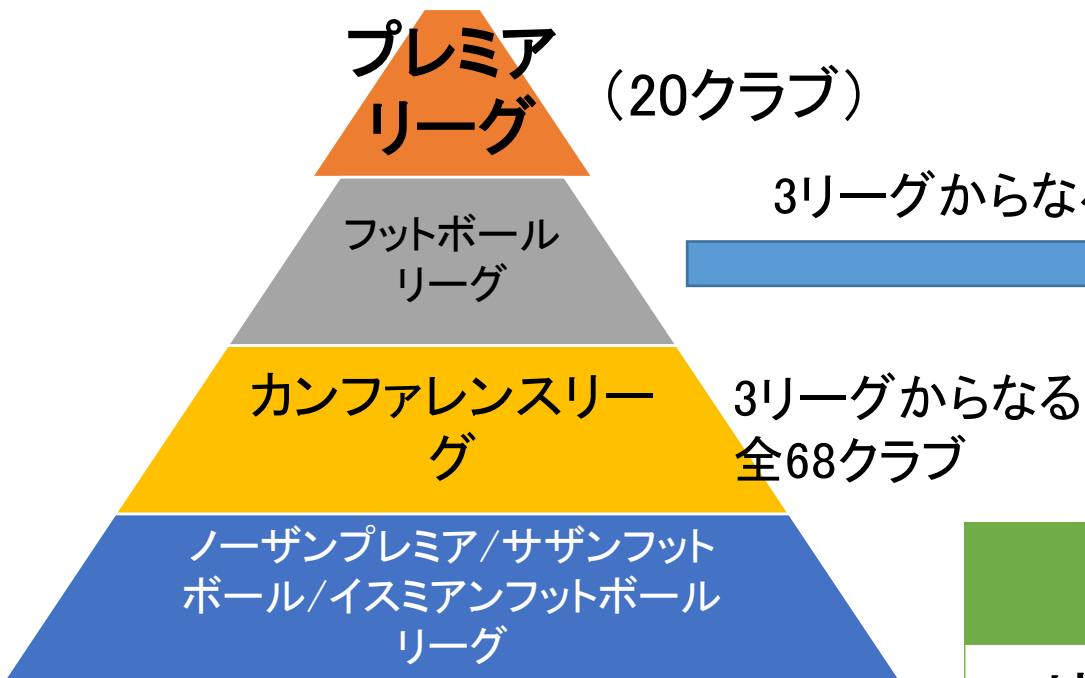


図2：イングランドリーグ各リーグ数



地域リーグとなり全24部  
までである

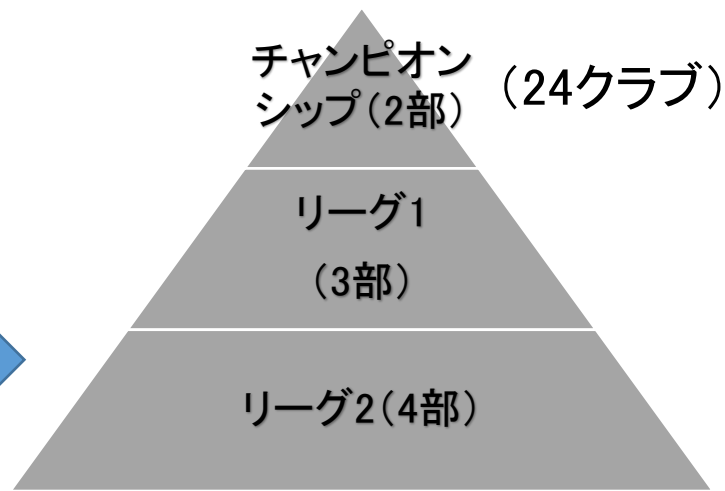
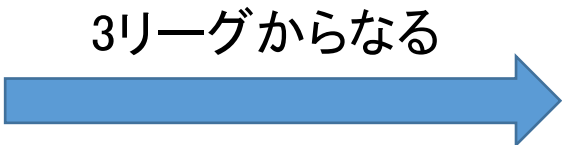


図3：フットボールリーグの仕組み

## 昇格条件

- リーグ1.2位が自動昇格
- 3～6位の4クラブからプレーオフで1クラブ昇格

## 降格条件

リーグワースト2位までが自動降格

# 2. 研究背景

表2: レスター・シティの各シーズン成績

シーズン	リーグ	順位
2009-10	リーグ1 (3部)	1位
2010-11	チャンピオン (2部)	5位
2011-12	チャンピオン (2部)	10位
2012-13	チャンピオン (2部)	9位
2013-14	チャンピオン (2部)	6位
2014-15	プレミア (1部)	14位
2015-16	プレミア (1部)	1位

レスター・シティは6年前には3部リーグおり プレミアリーグに来ても最下位争いをしていた

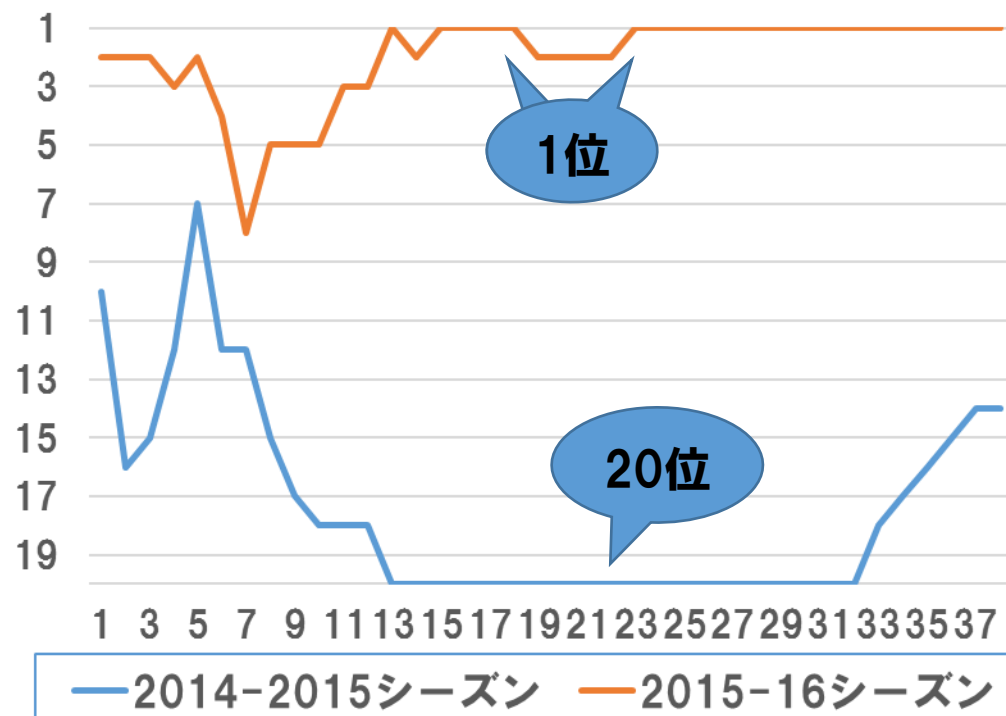


図5: レスター・シティのプレミアリーグ順位

プレミアリーグ 2013-14年優勝 <u>マンチェスターシ</u> <u>ティ</u>	プレミアリーグ 2014-15年優勝 <u>チェルシー</u>
---	---------------------------------------

## 2. 研究目的①

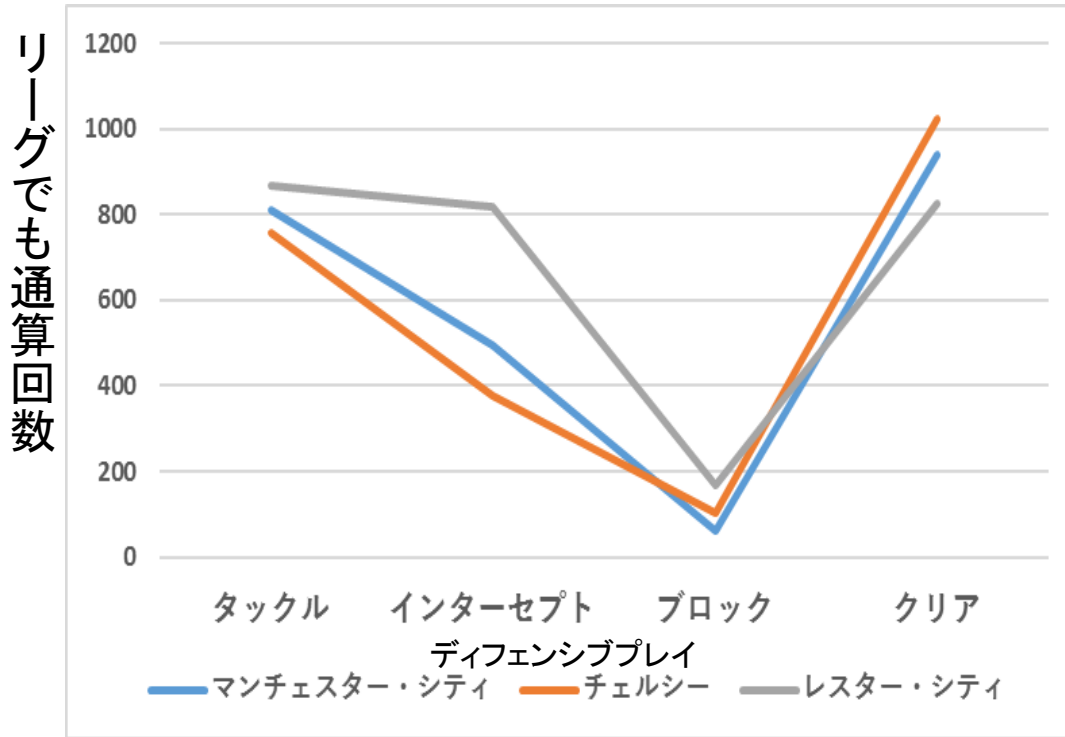


図6: 優勝クラブ比較

2013-14、2014-15年度の優勝クラブのデータと比べると**インターセプト**に大きな差が生まれた

守備に理由があるのかも

## 2. 研究目的②

プレミアリーグ開幕前

レスター優勝のオッズは5000倍

今年ネッシーが見つかる

500倍

今年ウィリアム王子に三つ子が生まれる

1000倍

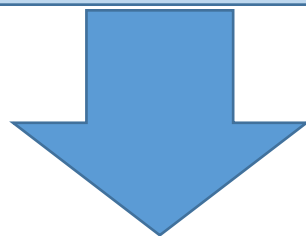
ローマ法王がレンジャーズでプレイする

2000倍

レスター・シティのプレミアリーグ優勝は実力相当のことだったのか奇跡だったのか確かめたい

### 3. 研究目的③

弱小クラブだったレスター・シティがプレミアリーグ優勝した大きな理由に失点の少なさとディフェンスの要となるインターセプトの回数が非常に多かった



#### 研究目的

失点数を目的変数として説明変数をインターセプトやクリアなどディフェンスの一般的な戦略に失点数にどう関連づけられるのかを知る

# 3. データ概要

- **データの概要** : プレミアリーグ2015-16年シーズンで行われた全38試合
- **期間** : 2015-2016年シーズン
- **分析対象** : プレミアリーグ2015-16年シーズンの上位5クラブ
- **データ項目** : ディフェンスに大事なタックル、インターセプト、ブロック、クリア、空中戦、シュートにつながったミス、イエローカード数など



# 4. 分析の流れ

目的変数を失点数とする

説明変数を使い目的変数を求めるため重回帰分析を行う

失点数との関係をつかむ

失点の原因と失点しない理由を把握する

# 5. 分析結果

表3: 失点数とディフェンシブプレイの回帰分析

		標準化されていない係数		標準化係数	t値	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
1	(定数)	2.808	2.278		1.233	.227
	シュートにつながったミス	-.281	.245	-.192	-1.146	.261
	空中戦	.039	.050	.160	.780	.442
	クリア	-.003	.030	-.019	-.100	.921
	ブロック	.119	.083	.263	1.435	.162
	インターセプト	-.065	.037	-.330	-1.750	.090
	タックル	-.006	.036	-.033	-.175	.862
	ボール支配率	-.018	.022	-.172	-.805	.427

$$Y = -0.281X_1 + 0.039X_2 - 0.003X_3 + 0.119X_4 - 0.065X_5 - 0.006X_6 - 0.018X_7 + 2.808$$

目的変数: 失点数

説明変数: タックル、インターセプト、ブロック、クリア、空中戦、シュートにつながったミス、イエローカード数などとする!

## 6. まとめと考察

- クリアやタックルは失点にはあまり影響していないことがわかった
- インターセプトとブロックは失点数に関係が深いことがわかった

## 7. 今後の課題

- ディフェンスの変数しか入れてなかったなのでオフENSEの変数もいれたらもっと失点との関係がわかっていくのではないかと考えられる
- 本研究では5チームのみ分析対象としたが今後の研究ではプレミアリーグ全クラブを対象にさまざまな要因を網羅した解析を行っていく

# 参考文献

[1] FourFourTwo (<http://www.fourfourtwo.com/statszone>)

最終閲覧日 : 2016/10/27

[2] Official Site of English Premier League  
(<https://www.premierleague.com/>)

最終閲覧日 : 2016/10/27

[3] ゲキサカ (<http://web.gekisaka.jp/>)

最終閲覧日 : 2016/10/27

[4] Jsports (<http://www.jsports.co.jp/football/>)

最終閲覧日 : 2016/10/27